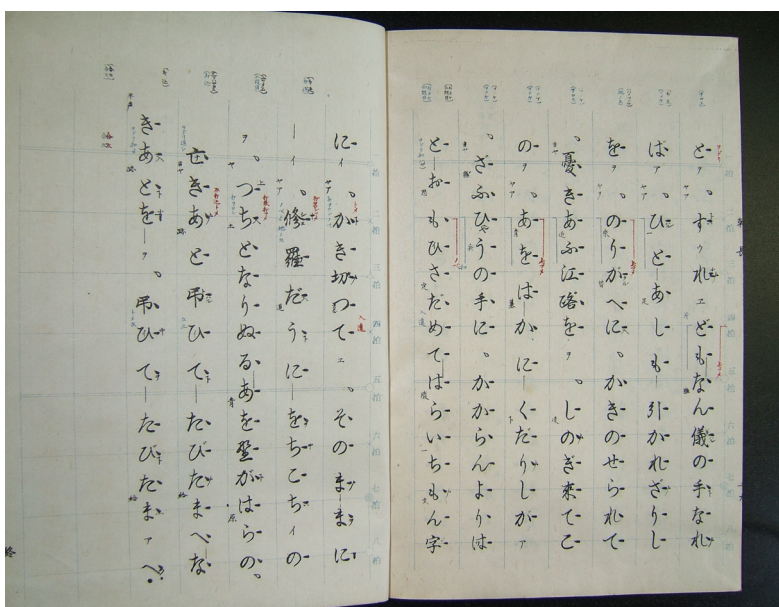
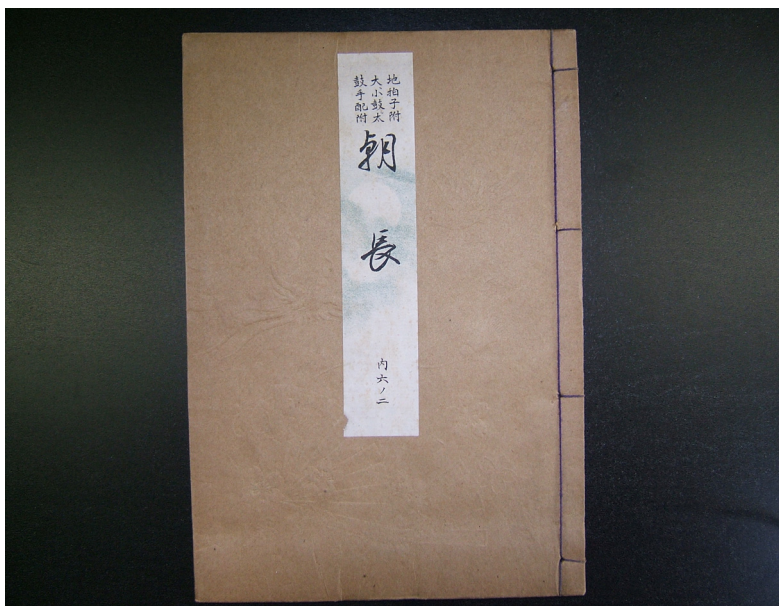


田崎延次郎 『大正十年四月檜常之助刊地拍子附謡本「朝長」』

写真下は、キリの部分である。高安流と葛野流の大鼓、大倉流と幸流の小鼓が色分けをして記されている。全体に中ノリとされるところであるが、典型的な中ノリの句、たとえば最初から四行目「憂きあふ江路を、しのぎ来てこの」では、文字が一拍を二つに分割した比率で（つまり、線上当と、その中間点に）配置されているのに対して、その次の上句（五文字ヤア）「あをはかに」では、「を」「は」「に」の文字が、拍と拍の中心には来ていないのである。これも、三分割モデルの反映である。



標題 内題…朝長

標題紙…

奥附…

その他…朝長（柱）、地拍子附大、小鼓。

太鼓手配附 朝長 内六ノ二（題

簽

著者 奥附…田崎延次郎

その他の場所…

出版 版次…第一版

出版地…東京

出版社…檜大爪堂書店

出版年…大正10（1921）

その他の場所…

形態 冊数…一冊 頁数…二〇丁

寸法…23×16（cm）

状態 写本版本の別…版本 現物複写の別…現物

備考